お問い合わせ先

衛藤病院 重度認知症デイ・ケア オレンジデイ 衛藤病院 通所リハビリテーション精神科デイ・ケア	大分県大分市上判田3433番地	TEL：097-597-0093
えとう内科病院	大分県大分市中判田1428番地１	TEL：097-597-6150
介護老人保健施設 親和園	大分県大分市中判田1428番地１	TEL：097-597-3635
住宅型有料老人ホーム 和らぎの里	大分県大分市中判田1950番地１	TEL：097-597-6360
グループホーム 庄屋の里	大分県大分市中判田1950番地６	TEL：097-597-8570
判田訪問看護ステーション きらら	大分県大分市中判田1419番地２	TEL：097-597-0255
はんだヘルパーステーション	大分県大分市中判田1950番地１（和らぎの里内）	TEL：097-597-8976
相談支援事業所 はんだ グループホーム（くりやた・ふかまち・しもばる）	大分県大分市上判田3433番地（衛藤病院内１階フロア）	TEL：097-597-0093
はんだ介護保険支援センター	大分県大分市中判田1419番地	TEL：097-597-0190
指定就労継続支援Ｂ型事務所 てんとうむし	大分県大分市中判田1419番地５	TEL：097-574-9082



医療法人社団 親和会
〒870-1111
大分県大分市上判田3433番地
採用直通：097-597-8005

親和園の面会方法の変更について【時間】10:00~11:30　14:00~16:00　※日・祝除く

・事前予約は不要　・洗濯物の交換も上記時間にて行います。
・上記時間内であればご自由に面会可能ですが、処置等の際には職員よりお声かけさせて頂く場合があります。

親和会の職員 アレコレ



大嶋 拓徠さん 介護福祉士

高校では福祉学科コースを専攻していて、実習や日々の授業などから興味がわいて、この仕事を選びました。就職先として親和園を選んだ理由は、小学生の頃に１度親和園に行ったことがあり、そのときの記憶が今でも印象に残っていて、さらに地域の方々との交流が多いと感じられたからです。実際に働いてみて、介助をした後のありがとうをもらえることがやりがいになっています。
これからも、たくさんのありがとうをもらえるように頑張っていきます。

新人さんのご紹介



えとう内科 栄養給食科

◆ 進 愛菜（しん あいな）／ 管理栄養士
◆ 平川 好花（ひらかわ このか）／ 調理員
◆ 藤田 彩希（ふじた あき）／ 調理員

えとう内科病院の栄養給食科の新人職員です。入職して間もないですが、先輩方にさまざまな事を教えていただきながら日々の業務に励んでいます。「安心・安全」な食事を提供することをモットーに細かなところまで気を配り一つひとつチェック作業を行うことを心掛けています。一日でも早く先輩方に追いつけるよう これからも努めてまいります。

TAKE FREE

SHINWAKAI Quarterly Magazine

nagomi

NO.2 2026.9

－ なごみ －



【特集】はんだ日本むかし話

判田朝市のお姉さまたちと親和会のおじさん

ココロとカラダと地域の健康をデザインする。

『認知症』について　－地域との取り組み－
親和会ってどんなトコ？　vol.02　えとう内科病院
Handa on foot －判田歩き－　大興寺餃子
地域と院内のイベント
オンライン診療って知っていますか？

はんだ

日本むかし話

教えて、昭和から平成までの判田校区

古きを温めてよりよい新しきを作るために、地域の人たちに色々と教えてもらいました。

医療法人社団親和会は、1968年に原点となる「衛藤病院」を開院し、今年で58年目を迎えました。地域の患者さんや利用者さん、そして働く職員の幸せを大切に考え、日々精進を重ねています。地域医療に取り組む私たち は、日頃から「地域」という言葉を頻繁に使用します。現在、親和会は規模の拡大に伴い、法人全体の職員数が400名を超え、グループの龍和会を含めると500名を超える大きな所帯へと成長いたしました。
それに伴い、判田以外の地域から通勤する職員が増加し、地域の歴史や背景を深く知らない職員も増えてきています。毎日の職務を通じて「現在の判田」を知ることはできますが、真の地域医療を実現するためには、地域の方々、特に高齢の皆様がどのような想いや記憶を抱いて来られたのかを知り、共有することが不可欠だと考えています。
新築の住宅が増え、移住者が増え、世代が変わるなど、判田は今、
大きく変化しつつあります。そうした中で、地域の歴史や想いを共有するために、地元の皆さまの生の声を聞かせていただく機会を設けることにしました。
判田公民館の館長にご相談したところ、ありがたいことに「我こそは」と手を挙げてくださった地元の方々に集まっていただけることになりました。

移り住んで来た人に向けて、まずは、インターネットでも調べられる基本情報から。
①判田村の誕生
1889年（明治22年）に町村制の施行で、大分郡中判田村、上判田村、下判田村が合併して村制を施行し、判田村ができました。旧村名を継承した中判田、上判田、下判田の3つの大字（おおあざ）ができました。
②判田村の廃止
1954年（昭和29年）大分郡戸次町、竹中村、吉野村と合併し大南町を新設して廃止され、自治体としての姿を消しました。
その後、大分市、鶴崎市、大分郡大分町、北海部郡大在村、北海部郡坂ノ市町と合併して、今は大分市の南部に位置するひとつの地域として存在しています。



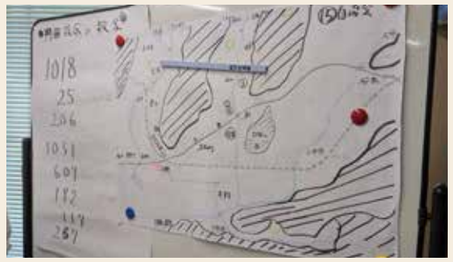
漠然と「判田について教えて！」と言っても、聞かれる側としては、テーマが広すぎて何を話せば良いのやら…。今回は初めての試みなので、「昭和～平成の判田はどうだった」「思い出せる判田のエピソード」「昭和○○年代の若者」など、なんでも思い出したものからドンドン話をしていただくことにしました。

参加していただいた皆様の年齢は70～80代。特に思い出されるのは子どもの頃の記憶だったようで、今から60～70年ほど前の話題に花が咲きました。当時、国道10号線はまだ開通しておらず、メインストリートは「えとう内科病院」の前や「あかつき保育園」に隣接する、今も使われている細い道でした。現在も商店街の名残はありますが、当時は人口も多く、中判田駅を中心に必要なものが街中にぎゅっと詰まっていたそうです。
通りには百貨店や精肉店、魚屋、自転車屋、映画館、造り酒屋などが立ち並び、判田の中だけで全ての生活が完結するほどでした。参加者の中には芝居小屋を覚えている方もおり、「お富さん」で一世を風靡した春日八郎が、歌いながら客寄せをしている姿を見たことがあるという貴重なお話も飛び出しました。

市町村合併の以前とその途中の期間中、大分県内のあちこちにそれぞれの賑わい拠点が存在していました。現代のような強い刺激はなくても、日常の小さな変化や地域での暮らしそのものを充実させて楽しんでいた様子が目に浮かびます。
メインストリートの道幅は当時とほぼ変わっておらず、自家用車の保有も珍しい時代でした。主な移動手段は、毎日35本ほど運行していたボンネットバスと国鉄の蒸気機関車です。たまにおめかしをして両親に連れられて行く大分市街地の「トキハ」への外出は、幼心に緊張しつつも、屋上プレイランドで遊べる嬉しさでいっぱいになる特別なイベントだったそうです。

聞き手にとっては初めて耳にする話が多く、当時の活気あふれる判田の情景が鮮やかに浮かび上がってくるひと時になりました。でも、さて、どうやって纏めよう…と書きながら考える(´∀｀)

はんだ 日本むかし話のつづき





参加者のお一人が、手書きの地図を作って持ってきてくれました。ピンポイントで特定の時代を切り取ったものではなく、国道10号線が開通する前後の川、店舗、集落、役場、学校などが記憶を基に丁寧に描かれた見事な力作。

この地図が呼び水となり、参加者の皆様のお話が一気に弾み始めました。
「元々、小学校はあそこにあった」
「役場の跡地は、今は民家になっているね」
「うなぎ採りの仕掛けを作っておいて、ラジオ体操の帰りに回収して家に持って帰っていた」
「昔は川でよく泳いでいた」
「河川が氾濫して、水害もしばしば起こっていたね」
「友だちとみんなで肝試しなんかにも行ったな」
「蒸気機関車が街中に向かう際、馬力が足りなくて坂道を登りきれず、砂を掻き下ろして車体を軽くしながら登っていた」
「バスはそんなにスピードが出ないから、走っているバスにそのまま飛び乗る人もいた」
次から次へと尽きない昔話に花が咲く中、あっという間にタイムアップ。数多くの人生と思いが交錯する地域の歴史を、わずか90分で語り尽くしていただくこと自体、もとより無理があったのかもしれません。

今後も地域の皆様に貴重なお時間をいただきながらお話を伺い、得た学びを今後の活動や地域医療、そして地域イベントにしっかりと活かしていきたいと考えております。



最後になりますが、当法人は認知症治療・ケアにも力を入れている精神科病院です。今回集まってくださった皆様は驚くほど記憶力が鮮明で、頭の回転も速く、「認知症とはまるで無縁なのでは」と感じさせられるほどでした。次回お会いした際には、ぜひその元気と健やかな頭脳を保つ秘訣についても伺ってみたいなと思いました。

はんだの あの頃と今

鳥越橋

橋は当時の面影を残したまま、今も変わらず判田小学校や判田中学校に通う生徒の通学路となっています。





あかつき保育所

昭和31年（1956年）に大南町立として、現在地に新設され、昭和38年（1963年）の市町村合併に伴い、大分市立あかつき保育所となりました。昭和58年（1983年）に、老朽化のため改築され現在の園舎となりました。今も昔も変わらず、子どもたちの元気な声が聞こえてきます













親和会の 歴史

















行ってみて！ 判田朝市

中判田駅のすぐ近く、毎週水曜の午前中だけオープンする判田朝市。大分県農村女性活動推進者の安東さんたちが30年以上続けているイベントだ。昔は地域の人口が多く、もっと大規模だったが、今でも多くの常連さんと支え支えられで、お客さんのおなかと気持ちを満たすため、そして、地域の活性化のために活動を続けている。もちろん、スーパーのように品揃えがよく、なんでもあるわけではないが、たっぷりの愛情で育てられた野菜や果物、手作りの菓子・総菜など朝市ならではのものが並んでいる。地域の人がふらっと集まって会話する場所でもあるので、地域の知り合いを作りたい人が行っても楽しめますよ。
場所：大分市中判田1736（むくもと歯科医院となり）。駐車場数台。
8:30頃にはやっています。





親和会も、月に1度、その一角に、お茶を飲みながら「介護・福祉・認知症」などの相談ができる「朝市カフェ」を出店しているので、良かったら来てくださいねー。
「朝市カフェ」は月に1度開催
（令和8年の予定：9/9・10/14・11/11・12/9）
お問い合わせは、TEL：080-2658-1663
メール：shinwakai581663@gmail.com





「お力添えくださいました皆様へ 謹んで御礼申し上げます」

医療法人社団親和会会長 故衛藤 和郎は令和8年6月8日、満95歳にて生涯をとじました。
昭和43年、判田の地に当法人が創設されてから50年は優にすぎ60年が経とうとしています。創設以来、精神科医師である前に人として患者様、働く職員と熱く向き合い寄り添ってまいりました。私たちは、治療だけでなく、その人がどのような環境・状態で暮らしているかを把握し、想いに耳を傾け、安心して生活が送れるようにスタッフと一緒に支援をしてきた姿を見てきました。まさに我々のグループが掲げる行動指針「4A（明るく、温かく、愛のある、安全な）」を身をもって実践してきたのだと思います。
大きな声までにじむのは、故人の優しさであり思いやりであり、その笑顔は患者様のみならず我々働く職員の安心感でもありました。私たちを叱咤激励する声も、今となっては良い思い出となっています。後年は病院の運営・経営の責任を負う身として、口癖のように「職員にご飯を食べさせないといかん！」と言い24時間365日寸暇を惜しんで働きました。
私たちは、精神科医師として経営者として誠実に向き合い、感謝を忘れずひたむきに歩んだ故人の志を継ぎ、地域医療、社会に貢献できるよう日々精進してまいります。生前賜りましたご厚情に深く感謝いたしますと共に、今後も変わらぬお付き合いとご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

医療法人社団 親和会　理事長 衛 藤 龍　職 員 一 同



『認知症』について　ー地域との取り組みー

認知症という病気そのものは特別なことではなく、誰もが年を重ねていくことで、大なり小なり起こり得る自然な変化のひとつなのです。「物忘れ」→「 MCI(軽度認知障害)」→ 各認知症 と、段階を踏んで症状は進んで行きますが、治療薬の開発や医学の進歩で、MCI(軽度認知障害) の段階で適切な対応を行えば、健常な状態に戻る可能性があります。

また、進歩は医学だけにとどまらず、福祉やサービスも進歩しています。相談、支援の輪の中で、それまでの生活を持続できる環境が整ってきています。「認知症になったらすべて終わり」ではなく、「認知症になったら治療を始める」。認知症について、きちんとした知識をつけて、正しく恐れ、早期相談・受診を行いましょう。

また、認知症は、誰にでも起こる可能性があるものなのですが、まだまだ偏見や誤解も多いのが事実で、治療や啓発と同時に若い子供たちへの積極的なアプローチも必要となっています。大分市には23の地域包括支援センターがあり、中学校校区ごとに配置されていて、親和会近くの「竹中判田地域包括支援センター」では大分南高校福祉科の生徒に認知症サポーター養成講座を行い、受講した生徒と共同で判田小・中学校に認知症サポーター養成講座を行っています。活動に関わってくれた高校生たちが小中学生たちに伝え、さら にまた連鎖的に行っていくことで、子どもの頃から偏見や誤解を持たない環境を作ろうというアクションです。

認知症になっても安心してその地域に暮らし続けられるよう、一人ひとりの理解と温かい見守りと、地域での支え合いが当たり前に行われる世の中するために、これからも頑張っていきます。

ちょっと教えて 先生のコト



衛藤病院
御手洗 朋美 先生

富士宮焼きそばで有名な、静岡県富士宮市出身です。大分に来て、お魚の美味しさに感動しています。植物が好きなので、趣味はパン屋さんと植物のお店巡り。あと、ドライブなんかも楽しみです。都市部で勤務した経験もありますが、地方出身なので地域医療に関心が高いので衛藤病院にやってきました。お若い方からご高齢の方まで、不安を感じたらお気軽にご相談ください。

永年の功績で 表彰されました



衛藤病院
野村 邦雄 先生

衛藤病院の野村先生が大分南高校で永年学校医に携わり学校保健の普及と向上の功績を称えられ、大分市教育委員会と大分市学校保健会より表彰されました。

私たちにとっても、いつでもシュッとして恰好よく、ちょっと憧れの先生です。これからも地域医療、そして衛藤病院を支えてください。よろしくお願いします。

親和会の知って欲しい取り組み



日本は超高齢社会を迎え、認知症患者数の増加が大きな課題となっています。こうした背景のもと、親和会では「認知症地域ネットワークプロジェクト」を行っています。

当法人には、衛藤病院の認知症治療病棟をはじめ、親和園の認知症専門棟、重度認知症デイケアオレンジデイ、グループホーム庄屋の里など、認知症に関連する施設が数多く存在します。これまで以上に「認知症を得意とする病院・法人」を目指すとともに、2040年に向けた病院再編や地域支援のあり方を捉え、判田地域において先駆的な認知症施策や推進員の活動を取り入れた新たなネットワーク構築を目指しています。

この取り組みの一環として、「地域で暮らす認知症当事者やご家族の気持ち、支援の現状」への理解を深めるため、法人全職員を対象とした「認知症サポーター養成講座」を計画・開催いたしました。2025年6月～11月には竹中・判田包括支援センターや認知症地域支援推進員を講師に招き、職種を問わず189名の職員が受講して認知症サポーターとなりました。

今後も、当講座を定期的に開催するとともに、新人職員研修にも取り入れ、全職員が正しい知識と理解をもって当事者やご家族を支えられる体制づくりと、新たな地域支援の創造に取り組んでまいります。







スマイルプロジェクトとは？

親和会では、毎年法人全体でスマイルプロジェクトというイベントを開催しています。簡単に言えば、年に一度の「笑顔づくりの活動の発表会」です。今年で5回目になりますが、きっかけは2020年の新型コロナウイルスの大流行。感染対策や面会制限などでマスクを付けて接触を避けるなど、常識やコミュニケーションがガラリと変わってしまいました。親和会だけの話ではないですが、笑顔や笑い声が減り、いかにそれまでの日常が尊かったのかを心と体で感じた人も多いと思います。笑顔は心の採点表のようなもの。笑顔を増やすとともに、「もっと達成感を持って働きたい」「明日につながる看護がしたい」といった思いが高まり、この取り組みが始まりました。常に患者さん、利用者さん、ご家族、そして職員が笑顔でいられること意識して看護・介護を行う中で、今年は「利用者さんのご家族への手紙」「アニマルセラピー」「患者さんと一緒に作る指紋アート」など、職場ごとに計12の発表がありました。

職員一人ひとりが常に笑顔について考えることで、今日より素晴らしい明日を実現していきます。院内で私たちを見かけたら、ぜひ笑顔で声をかけてくださいね。

親和会ってどんなトコ？



vol.02
えとう
内科病院

自分の体は自分が一番よく知っている。

…と、かつての私も言っていました。

えとう内科病院は地域のかかりつけ医として皆様の健康づくりをお手伝いします。

「特定検診・後期高齢者健診」受けていますか？

「自分だけは大丈夫」「忙しいから後回し」「もし引っかかったら好きなお酒が飲めなくなる」など、自分の中で言い訳をしがちです。病気や体の不調は、早く見つければ見つけるほど回復できる確率が上がります。「健康であることを確認するために」と言えば気が乗らない方もいるかもしれませんが、考え方をちょっとだけ変えて、「好きなことを一生楽しめるように」「大切な人と長く過ごせるように」と、失う怖さよりも得られる幸せを考えて、健診を受けましょう。

「特定検診・後期高齢者健診」の要綱

対象は、**国民健康保険加入の40〜74歳の方**と、**後期高齢者医療制度加入の75歳以上の方**。
内容は、**①身体検査 ②血圧測定 ③尿検査 ④血液検査 だけ**ですので、すぐに終わります。
実施日は、**毎週水曜・土曜。予約制。**アットホームな病院なので、お気軽にお電話してください。

お問合わせ・ご予約　097-597-6150

「えとう内科病院」は

母体である精神科「衛藤病院」の診療所として約40年前の1987年に開院した内科病院です。たくさんの歴史と経験を重ねたため、建物は多少…まあまあ、レトロですが（笑）、医療器具は新しく、経験豊富なドクターや看護師が揃っています。 内科診療・呼吸器疾患の診療・消化器疾患の診療・胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査・訪問診療を行っていて、特に内視鏡検査においての評判が高いと自負しています。検診は受けて終わりではありません。結果の説明や生活習慣改善のアドバイス、必要に応じた治療や専門検査のご相談にも対応しています。これからも、みなさんが頼れて利用しやすい地域のかかりつけ医でいられるように、研鑽とフレンドリーなコミュニケーション作りに努めます。





親和会写真部 宮茂 先生









えとう内科病院の宮先生は、大学生の頃から写真を撮り続けてきた“ほぼプロ”の写真マニア。90歳になった今も、変わらぬ情熱でカメラを構え続けています。
「風景は季節感を大切に、鳥はとにかく待つこと」と笑顔で語り、気に入った一枚は患者さんにそっとプレゼントしたり。先生がいる場所は、気づけば小さな写真展に早変わりします。宮先生を見かけたら、ぜひ写真談義を。思わず心がほころぶ、あたたかな時間になりますよ。（忙しかったらゴメンナサイ）

Handa on foot 判田歩き

探してください >>>>>>>
下判田のダンジョンで息をひそめる餃子屋さん







判田は広い。19世紀後半に上判田、中判田、下判田が合併し、できたのが判田村。1954年に合併して大南町となって自治体としての姿がなくなった。その頃について語れる人も今となっては少なくなったが、山あり、川あり、商店街あり、鉄道の終着駅ありと、広大な自然の中に突然町が現れる光景は、さながらドラゴンをクエストするゲームの世界観。
南の洞窟、西の塔といったものは無いが、東に旨い餃子屋があると聞き、取材に伺わせていただくことにした。グーグルという会社が作る宝の地図を手に、東へ進む。判田を出て、新鮮市場を左に見ながら鶴崎大南線を直進、橋を渡ってすぐ左に曲がると小さな看板などが見えてくる。それに従って進むと、住宅街の中に突然お店が現れた。
店主は時松春樹さん、祖父母の代から40年間作り続けていた餃子の味を守りたい。ただそれだけの理由で整備士を辞め、お店をオープンし、今はお母さんも手伝いに来ている。コンセプトも形態もとてもアットホームなお店だ。
昼時を少し過ぎたタイミングで、ランチをオーダー。焼餃子セット、水餃子セット、唐揚げセット、餃子と唐揚げが楽しめる大興寺セットの4つの中から大興寺セットをセレクト。価格は大興寺セット（餃子5個+ 唐揚げ2個、ごはん、汁物、漬物、サラダ付き）850円からと、今の時代ではリーズナブルなお値段。餃子と唐揚げの数で価格が変わるので、お腹とお財布の具合と相談しながら注文できる。
餃子は、最近パリパリした羽根付きのものなども人気だが、大興寺餃子のものは、他とはちょっと違う。特徴は大きく分けて4つ。①ニンニク不使用②少し厚めの皮なのでもちもち食感③餡には国産野菜、国産豚肉（桜ポーク）を使用④一つひとつ手包みの温かさ。
驚くのがもちもちの食感。噛むとジューシーな肉汁が溢れ出し、口の中に旨味が広がる。餃子のサイズも大きくて、腹持ちも良い。
普通の餃子でも旨いのに、お客さんを飽きさせないように味変もできるようになっていて、テーブルには酢醤油、ラー油、特製唐辛子、コショウが置いてあり、おすすめはラー油だけでいただく食べ方なんだとか。試行錯誤で色々と試してみて。
テイクアウトや通販もやっていて、さぞや商売上手なのかと思いきや、場所が場所だけに忘れられがちなのが悩みなのだそう。
最後にまだ見ぬお客さんへのメッセージを聞いてみた。
「もうすぐ１０年目、そろそろ見つけてください…」
優しき餃子モンスターの声がダンジョンに響き渡る。繁盛しない理由がないと思うので、判田のみなさん行ってみて、そして忘れないで。私もこれから月に1回は行きます。



大興寺餃子

大分市大字下判田 1339 番地
TEL / 097－597－7500
営業時間 /11：00 ～ 20：00　定休日 / 火曜
席数 / カウンター 3 席、テーブル 1 卓（4 人）
駐車場 /5 台

Instagram　BASE



地域と院内のイベント

職員親睦大バーベキュー大会 2026.05.06

ちょっと変わった福利厚生をと、ふれあい広場しんわ（リョーユーパン跡地）で、親和会・龍和会の職員とその家族を集めて大バーベキュー大会を開催しました。大分市キャンプ協会の火起こし体験や自然遊びを交えて、お肉総重量約45kgを準備して参加者200人弱で大いに盛り上がりました。今後も、地域の方を交えてたくさんのイベントを仕掛けていきます。理事長もラフな格好で接客をしてくれましたが、某弁当屋さんのフランチャイズオーナーにしか見えなかった…まあ、余談ですけど。









映画上映会イベント　2026.05.06

判田校区とチームオレンジたけはん共催で映画上映会を行い、親和会も協賛しました。上映前には理事長のあいさつや庄屋の里のPRも行わせていただきました。緊張で頭が真っ白になり、しっかりPRが行えなかったので、グループホームや認知症のデイサービスをもっと知りたい方は、いつでもお問合わせください。

大分県看護協会主催 「高校生1日看護体験」2026.06.19

大分県看護協会主催の「ふれあい看護体験」が行われました。親和会では、大分市内4つの高校から計６名を受け入れ、看護の現場を体験してもらいました。今年参加してくれた高校生たちは、看護師になりたいという思いが強い人が多く、キラキラした目で体験に取り組む姿に、応援したい気持ちでいっぱいになりました。縁があったら親和会に来てくださいね。





アリかも。
看護師
おおいた暮らし。

看護師・介護士募集中！ （退職看護師のチョイワークも）

患者さん、利用者さん、そして職員の生活を守るため、看護師と介護士を募集しています。
職員本人の子育てや介護のために、何らかの無理がかかる。そういった事態がたまに発生します。そこで、入院患者さんの入浴や、食事のお世話など、「ちょこっとだけ」働く看護師さんも募集中です。
年齢は問いません。詳しくはお問合わせください。

【担当】総務部人事課　梅田　TEL：097-597-8005

オンライン診療って知っていますか？



医療法人すずらん会「たろうクリニック」
内田直樹　院長

どこにいても病院と同様の診察を受けることができる。通院や移動の手間を省ける技術として注目を集めるオンライン診療。親和会では現在行っていませんが、社会の多様化に応じて、多くの人の命や生活を支える有望な手段として、常に検討を重ねています。今回は、福岡で在宅医療や訪問診療を行っている「たろうクリニック」内田直樹院長に、患者さんの選択肢を増やすために、早くからオンライン取り入れた事例に沿ってお話を聞かせていただきました。

「たろうクリニック」とオンライン診療の出会いは早く、今より約9年も昔。コロナ禍のずっと前の、オンラインでのやり取りもまだ頻繁ではなかった頃。2017年に福岡市で行われたヘルステックベンチャー《「Health（健康）」と「Technology（技術）」の問題解決や市場の開拓》の実証事業への参加が契機。当時、離島や僻地の医師不足の対策についてのニュースがクローズアップされていたこともあり、当初は外来患者向けと考えられていました。実際に導入してみると「通院が困難ながん末期の患者さん」「入院せずに自宅に留まりたい患者さん」などへの在宅医療との高い親和性が見出されたのだとか。それまでは少しでも多くの安心感を育みたいという想いとは裏腹に、移動にかかる時間がかかりすぎて、診療できる件数が限られてしまうことが課題でしたが、より多くの患者さんの診察が可能になり、たくさんの安心感を醸成することができるようになりました。さらに、やってみてわかったこととして、認知症のように無自覚や恐怖から病院に行きたがらなかった方の診察もしやすくなり、家族や周囲の方々が困られている現場でも、役に立つことがわかったのだとか。
現在では、医師がすぐに駆けつけられない緊急時の臨時往診代わりとしてオンライン診療を利用し、月間千人以上の患者を抱える在宅医療の現場を支えています。電話による音声のみの報告とは異なり、画面越しに「視覚情報」が得られるため、医師の診断の質が飛躍的に高まるだけでなく、顔を見て話すことで患者や家族に大きな安心感を与えられるのが大きな強みになっています。
今は馴染んできたオンラインですが、課題はあります。平均年齢83歳（「たろうクリニック」さんの場合）という高齢な在宅患者にとって、スマートフォンの操作やITリテラシーの壁は小さくありません。これを解決する仕組みとして、「D to P with N」モデル（医師（Doctor）がオンラインで遠隔診療を行い、患者（Patient）のそばに看護師（Nurse）が同席して診療を補助する新しい医療の形）が注目され、診療報酬での評価も進んでいます。日本は海外に比べてオンライン診療の普及や制度整備が遅れている実態もありますが、在宅医療の未来を切り拓く選択肢として、今後のさらなる普及と活用が強く望まれるのだということです。

内田直樹院長は、著書も複数持たれています。「早合点認知症」「認知症プライマリケアまるごとガイド」「認知症の人に寄り添う在宅医療 精神科医による新たな取り組み」など。もっと詳しく知りたい方は医療法人すずらん会「たろうクリニック」で検索または右記QRコードからチェックしてください。
患者さんやご家族への想いは親和会も同じです。より良い明日づくりのために、これからも頑張っていきます。内田院長、お忙しい中ありがとうございました。

クリーン作業





毎月第2土曜日に法人周辺の清掃活動「クリーン作業」を行っています。2026年7月で320回目、年数にすれば27年目となります。始まりは大分県で第一号の病院機能評価という認証を受けるためには地域貢献という要素が必要だったからという理由があったからなのですが、「まちに飛び出せ」というスローガンのもと、始めてみると気付けばなんだか盛り上がり、会長など20名程度で始まった活動は、今では多い日は理事長・常務も含む50人ほどの人が集まるものになりました。
清掃エリアは親和会の各施設から徒歩圏内。毎回少しずつコースやエリアを変えて行っています。時代の流れか地域の方々の意識の高まりからか、落ちているゴミは年々少なくなり、法人内で日頃やり取りのない人たちとの交流の場という役割も大きくなっています。1月の清掃は、特に多くの職員が参加します。目的は栄養士さん調理師さんたちによる雑煮とぜんざい。毎月食べたくなる絶品です。地域の方の参加もウェルカムです。1 月だけでも参加してみませんか。詳しくはお問合わせください。